

米国高等教育の Alumni Studies の現在

—SNAAP と B&B を通じて—

江 原 昭 博 (高等教育推進センター)

要 旨

2008年に出された中央教育審議会の答申(いわゆる「学士課程答申」)では、AP、CP、DP という3つの方針が打ち出され、改善を進める支援機能としてIRが取り上げられた。実際、山田礼子や金子元久による全国規模の学生調査を通じて個別高等教育機関の機能改善を超えた学生支援や教育効果を実証的に研究する事例、学士課程教育に関する基礎研究の萌芽が見られる。こうした分野で先行するアメリカの事例研究が進む中、アメリカにおいてIRが急速に普及した1980年代以降、Alumni Researchと呼ばれる分野が発展し定着していることがわかってきた。米国初の同窓会がウィリアムズ・カレッジで結成後、百年を経た1930年代にAlumni Relations(校友行政)が確立する。そして基礎研究としてのAlumni Studies(卒業生研究)が成熟し、IRの急速な発展と時を同じくする1980年代に応用研究・実践としてのAlumni Researchが開花する。本稿では基礎研究として発達したAlumni Studiesが1980年代以降どのような進化を遂げて現在に至るのか。その代表的事例であるBaccalaureate and Beyond Longitudinal Study と Strategic National Arts Alumni Project を取り上げた上で、アメリカ高等教育における意義と日本への示唆を概観する。

1. はじめに

中央教育審議会の答申『学士課程教育の構築に向けて』(2008年)では、学士課程教育の充実に向けた改革課題として、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーという3つの方針の明確化が打ち出され、自己点検・評価による質保証システムの支援機能としてInstitutional Research(IR)が取り上げられた。IRとは、当該機関(Institution)の経営・教育全般をめぐる情報収集や計画立案を通じて経営・教育改善に資する調査研究(Research)を指すものであり、認証評価の義務化などを背景に、経営改善や教育改善への寄与という点から関心が高まっている(沖・岡田 2008)。

これに加えて、山田礼子を研究代表とするJCIRP(山田 2009, 山田 2012)や金子元久を研究代表とする全国大学生調査(金子 2008, 金子 2013)など、全国規模の学生調査を通じて個別高等教育機関の機能改善を超えた学生支援や教育効果を実証的に研究する事例、いわゆるIRを形成する基礎研究が見られるようになってきた。これらの日本におけるIRにまつわる活動の急速な導入に伴い、先行するアメリカの事例が注目された。そのさきがけは喜多村(1973)である

が、近年はアメリカの新しい動向が紹介されており（山田 2003, 鳥居 2005, 青山 2006, 小湊・中井 2006, 沖・岡田 2008, 岡田 2009, 野田 2009）、それによって日本の現状の整理も進んでいる（江原 2013, 小林 2014）。

こうしてアメリカの IR に関する研究や知見の整理が進むにつれ、カレッジや大学における IR の事例は実際には様々な分野に渡っていることが少しずつ明らかになってきた。たとえばアメリカにおいて IR が急速に普及した1980年代以降、Alumni Research*¹と呼ばれる分野が発展し定着している。IR を実践・研究する全米組織である The Association for Institutional Research (AIR、全米 IR 学会) の機関誌である New Directions for Institutional Research (NDIR) において、1988年に *Alumni Research: Methods and Applications* と題して特集が組まれた (Melchiori 1988) ことは象徴的である。

このような、アメリカのカレッジや大学における Alumni Research に関連する研究としては、寄付金に関する研究 (田中 2006, 丸山 2006, 小林他 2007, Lapovsky 2007, 小林他 2008, Reed and Reed 2008) や、同窓会に関する研究 (清水 1987, 喜多村 1990, 飯野 1997, 山田 2003, 2007)、卒業生や校友組織の研究の米国における生成と発展に関する研究 (江原 2009, 2010, 2011) などがある。

この Alumni Research については歴史的に大きく分けて三段階を経て発展している。1636年にハーバードが設立後約200年に渡る大学の進化を経て、1821年に初めての同窓会がウィリアムズ・カレッジで結成される。それから約100年かけて校友の組織化が進み1930年代に Alumni Relations (校友行政) が確立する。その後、基礎研究としての Alumni Studies (卒業生研究) が成熟し、上述の1980年代に応用研究・実践としての Alumni Research が花開き、現在に至るまで多種多様な発展を遂げている (江原 2011:52)。

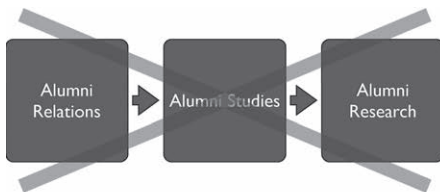


図1 三段階モデル (誤)

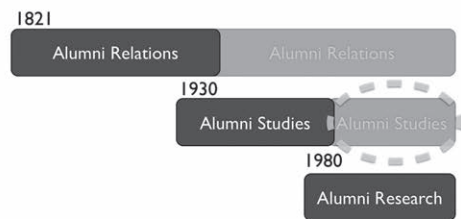


図2 三段階モデル (正)

ここでいう三段階モデルとは、次段階が前段階に取って代わり単純に変遷するというものではなく (図1)、前段階が成立することによって次段階の発展が並行して準備されるモデルである (図2)。これまでの研究を通じて著者は図2のうち三つの濃紺部分について取り組んできた (江原 2009, 2010, 2011)。そこで本稿では図2の円で囲んだ部分、つまり基礎研究として発達した Alumni Studies について、米国で現在進められている Alumni Studies の代表的事例である Baccalaureate and Beyond Longitudinal Study (B&B) と Strategic National Arts Alumni Project (SNAAP) を取り上げることによって、アメリカの高等教育における Alumni Studies の現在の到達点を確認する。

2. Alumni Studies とは

アメリカでは、IR の一領域として卒業生（アラムナイ、Alumni^{*2}）を対象とした調査や研究、事業や実践が活発である。この領域では、Alumni Relations^{*3}、Alumni Studies^{*4}、Alumni Research などの類似の術語が異なる意味で使い分けられ、しかもその意味内容が時代によって変化するという複雑な状況にある。例えば現在では、何らかの形で卒業生を対象とする分析や実践についてはそれらを一緒くたにして単に Alumni Research と称することが散見されるが、遡って1980年代以前は、様々な混同も含めて Alumni Studies とひとくくりと呼んでしまうことがほとんどであった（江原 2009, 2010）。そこでここではまず、前章で触れたアメリカのカレッジや大学における卒業生や校友組織の研究の発展において、それぞれの段階の特性を振り返り、本稿における現代の Alumni Studies の理解につなげる。

まず初めに Alumni Relations である。卒業生や校友組織の研究が発展するための重要な土台が、1930年前後の Alumni Relations（校友行政）の確立である。それはひとつには現在実施されているほとんどの卒業生関連事業、例をあげれば、校友の理事会参加、寄付金事業、就職斡旋、地域学生募集、同窓会開催、継続教育、卒業生調査、校友会報などがこの時代までに生まれたこと、またひとつには校友組織におけるアメリカの高等教育全体の全米統一団体である The American Alumni Council が成立したことに象徴されている。繰り返しになるが Alumni Relations の確立が、アメリカにおける卒業生や校友組織の研究が発展するための必要条件であった（江原 2009:127-136）。

次に Alumni Studies である。米国の高等教育研究を歴史的に振り返ったとき、Alumni Studies（卒業生研究）のひとつの特徴は、大学の卒業生を一つの集団、高学歴者というひとつの社会階層として把握し研究対象としたことにある。アメリカのカレッジや大学の校友の組織化が完成したことがこれらの研究を進める土台となったことは当然だが、一方でアメリカの高等教育進学率が一定の水準に達したことによる社会的な環境が、複数の高等教育機関の卒業生を一括した集団として取り扱う社会的な研究を進める基盤となり、Higher Education Studies（高等教育研究）の一分野としての Alumni Studies（卒業生研究）を成立させる原動力になったと考えられる（江原 2010:163-164）。

そして最後に Alumni Research である。基礎研究としての Alumni Studies が学問的成熟を遂げた時代は、個別高等教育機関において IR が発展を遂げた時代と重なっていた。IR が発展した1980年代に上述の Alumni Research が勃興したことは偶然ではない。Alumni Research は、実践研究（Practical Research）や応用研究（Applied Studies）の形となって現在に至っているが、これらは基礎研究としての Alumni Studies を通じて得られた知見を、各高等教育機関における IR、あるいは施策、実践に活用していったものである（江原 2011:45-51）。

それでは Alumni Studies が現代の高等教育の世界で具体的にどのような形で活かされているのか。ここには三つの側面がある。一つ目はこうした大規模な卒業生調査を通じて個別高等教育機関の卒業生を多種多様な高等教育機関全体の中で相対化を可能としたことである。これによってベンチマーキングが可能となり、学習成果の可視化にもつなげられた。二つ目は Alumni Studies が成果の公開を原則とする学問的な成熟を遂げたことにより、それまでは各大学で個別に行われていた校友行政の実践に Alumni Studies を通じた基礎研究の成果の蓄積を通じた新

たな実践手法を与え、個別機関によって闇雲に行われていた分析に学問的な裏付けを与えたことである。三つ目は Alumni Studies が研究分野として学問的に成立することによって、学問的に卒業生研究を進める研究者と実務面から校友行政を進める職員との人的交流を生み出したことである。例えば寄付金や校友サービスなどは基金室や校友課の職員が担当している一方で、卒業生調査などは高等教育センターなどの機関附置組織の研究者が担当していることが多かった。学問分野として Alumni Studies が確立されて以降は、そこで得られた調査技術や研究成果がこれらの人材の間で共有され蓄積されることによって、実務担当者の目的に即した実用的な研究 (Practical Research) や、研究対象としての応用的な研究 (Applied Studies) としての Alumni Research が発展することとなった (江原 2010:164-165)。

今回本稿でとりあげているのは、アメリカのカレッジや大学における卒業生や校友組織の研究および実践の今日における発展に極めて大きな役割を果たした Alumni Studies に関する現在の具体的な姿である。以下、Baccalaureate and Beyond Longitudinal Study (B&B) と Strategic National Arts Alumni Project (SNAAP) という、代表的なプロジェクト二例を通じてアメリカの高等教育における Alumni Studies の現在を考察する。

3. Baccalaureate and Beyond Longitudinal Study (B&B)

The Baccalaureate and Beyond Longitudinal Study (以下 B&B) は、学士課程学生の学費状況に関する全国規模の学生調査である the National Postsecondary Student Aid Study (以下 NPSAS) の直近の参加者から抽出した大学卒業直後の学士課程修了者を対象に、米国教育省の National Center for Education Statistics (以下 NCES) によって実施されている大規模社会調査である。B&B による継続的な研究を通じて、各卒業生の学修体験、就業体験、その他の生活経験が長期的な大規模データとして蓄積され、これらの情報は学士号取得者の大学卒業後の教育体験、就業体験、生活経験に関する、より深い理解を与えるものとして研究者、教育関係者、政策担当者に提供されている。さらにこの B&B による継続的な研究を通じたこれらの膨大な情報は、個人及び社会全体における高等教育経験の有効性を明確化する際に役立っている。

B&B はこれまで3度行われている。最初の B&B は、1993年の NPSAS 調査参加者から引き出された約11,000人を対象に1994年に調査を開始し、1997年と2003年にフォローアップ調査が行われた (NCES 2005)。2度目の B&B は2000年の NPSAS 調査参加者から引き出された約10,000人を対象に2001年に調査が行われた (NCES 2003)。3度目の調査は2008年の NPSAS 調査参加者から引き出された約18,500人を対象に2009年に実施され、2012年にフォローアップ調査が行われた (NCES 2013)。以下、直近の3度目の B&B 調査を中心にその行程についてさらに詳細に見て行く。

3度目の調査である Baccalaureate and Beyond Longitudinal Study 2008/2009 (以下 B&B 08/09) の調査対象となる集団は、学士課程の学位要件を2007年7月1日から翌年6月30日までの間に修了し、2009年6月30日までに学士号を取得した学生である。調査対象となる学生の所属する高等教育機関の抽出は IPEDS の2004-5年データに基づいて行われ、1,960機関が抽出された。B&B における卒業生調査の基礎調査となる学生調査である NPSAS は、B&B 08/09においては2008年度に対象学生137,800人に対して実施された。この内、約25,050人が対象時期におい

て学士号取得の可能性を持っていたが、最終的に B&B 08/09の調査対象の卒業生として約 18,500名が抽出され、その後実際に B&B 08/09が実施される際には約1300人が対象から外されて、最終的に調査対象者は17,170人に絞られた (NCES 2013:5-14)。

このうち、16,050人の連絡先が判明し、15,090人が調査に協力した。この事は調査対象者全体の88%、連絡先が判明した対象者に絞れば94%が回答したことを示しており、大学卒業生を対象とする卒業生調査の回答率としては比較的に高いものとなっている。B&B 08/09の調査はウェブサイトによるものと電話によるものの2種類で、ウェブサイトによる調査が12,240件と全体の80%以上を占めている。一件あたりの調査時間はウェブサイトによるものが約26分、電話によるものが約33分、全体平均で約28分であった (NCES 2013:15-55)。

B&B の重要性については、調査から得られる最新の知見や膨大な情報そのものであることはもちろん言うまでもない。ただ Alumni Studies の現在における B&B の重要性という観点から考えると、その運営内容やそれを実現するための組織体制にこそ最大の重要性が存在すると考えられる。上述の通り、B&B 93/94、B&B 00/01、B&B 08/09は、それぞれ前年度の NPSAS をベースデータとして実施されている。NPSAS データには、米国教育省の奨学金データ、入学時の SAT データ等が紐付いており、さらに B&B 08/09では大学での学業状況も繋いでいる。これだけのデータを質量ともに各種ステークホルダーから集積し、それを全国レベルの大規模卒業生調査までつなげる運営体制の組織化は、国家的バックアップはもちろんだが、研究者や実務者レベルでの協力体制が構築できない限り不可能だ。

日本における大学卒業生の調査としては、独立行政法人労働政策研究・研修機構が幾つかの貴重な調査を行っているが、その焦点は職業的レリバンスや雇用環境の分野であり、省庁や個別セクターの利害を超えた形の国家規模の調査体制を構築することは単独では難しい。大規模な社会調査としては、1955年以来社会学研究者グループによって実施されている社会階層と社会移動全国調査 (The National Survey of Social Stratification and Social Mobility、通称 SSM 調査) が成果の公開や社会的な貢献といった意味で実施されているが、これはあくまでも社会調査という枠組みで実施されており、大学卒業生や、大学の教育効果について直接的に調査対象としているわけではない。

自戒も込めて捉えるならば、一般に研究の世界においては分析手法や得られた数字にばかりに目を向けがちで、その分析結果を導くための運営方法や体制構築の部分、つまり当該プロジェクトの実現を支えるマネジメントの部分が見落とされがちである。B&B のような規模の実施体制を確立し、それを継続的に続けて行くことができる米国教育省およびそこに参加する研究者、実務者、政策担当者の執行体制にこそ、現代の米国のカレッジや大学の Alumni Studies における B&B の重要性を象徴するものである。

4. Strategic National Arts Alumni Project (SNAAP)

Strategic National Arts Alumni Project (以下 SNAAP) は、芸術系の大学・学部の卒業生を対象とした卒業生調査で、在学中の教育内容や学修経験と卒業後のキャリアパスを分析し、その知見を芸術系教育の向上、文化的政策の情報提供、そして芸術家の支援に活かすために大学関係者、政策担当者、教育関係者と共有していくものである (SNAAP 2014:2)。SNAAP の運営につい

では、当初研究資金ベースのプロジェクト型の調査としてインディアナ大学中等後教育センターとヴァンダービルト大学カーブセンターとの共同によりインディアナ大学調査分析センターの管理によって進められた。現在ではサードナ財団をメインスポンサーに、ヒューストン基金、パー財団、全米芸術基金、クリーブランド財団、全米教育財団等の支援のもと、インディアナ大学中等後教育センターにベースを置き、アリゾナ州立大学ハーバガー芸術研究所の協力のもと、参加費用を徴収するコンソーシアムを形成して独立した形でインディアナ大学調査分析センターが運営している (SNAAP 2014:4)。

SNAAP は2008年に40機関の卒業生約1,700人が参加したパイロット調査から始まり、2009年のパイロット調査では54機関の卒業生約4,000人が調査に参加し、2010年のパイロット調査では154機関の卒業生約13,000人が調査に参加した。3年以上かけたこれらのパイロット調査を踏まえて、翌2011年には現在につながる本格的な調査が開始され、この年の調査には66機関の卒業生約36,000人が参加した。さらに翌2012年には70機関の卒業生約33,000人が調査に参加し、そして2013年には86機関の卒業生約26,500人が調査に参加した。最初のパイロット調査からこれまでの間に286機関 (参加機関名は本稿末尾) が参加しており調査協力者は10万人を超えている (SNAAP 2012, SNAAP 2013, SNAAP 2014)。

SNAAP の調査方法はインターネットを通じて質問票に答えていくオンライン調査であり、一回あたりおよそ20分から30分の調査時間が想定されている。本格調査が始まって以降の三年間の回答率の平均は18%であり卒業生調査としても、オンライン調査としても十分な回答率を維持していると言える。調査の知見は、調査に参加した芸術系分野出身者やその家族のみならず、関連教職員、政策担当者、研究者などに共有される。その際、まとめられた調査データについては研究目的で使用されるが、人物や団体を特定するような結果については事前の同意がない限り公開されない。調査参加の締め切りは当年度7月で、同年秋に調査が実施される。調査費用は当該大学の芸術分野卒業生数によって3,000ドルから7,500ドルまで変動する。参加大学への結果報告書及び調査全体の報告書は当該調査翌年の秋、つまり調査後約1年で作成されている (SNAAP 2012, SNAAP 2013, SNAAP 2014)。

参加大学による SNAAP 活用の事例としては、サンフランシスコ芸術大学では1965年制定の米国高等教育法に基づく機関情報の公開において、米国西部基準協会による認証評価に則った中退率や卒業率の公表とともに、SNAAP 参加を通じた卒業生の分析を活用している。サンフランシスコ芸術大学は AICAD (Association of Independent Colleges of Art and Design) というコンソーシアムに参加しているが、SNAAP の調査結果については当該年度の SNAAP 参加機関全体のデータ、AICAD のデータ、そして自学のデータを比較することによりベンチマーク調査を行っている。具体的な学習成果の指標として、例えば2012年の SNAAP 調査において、AICAD の調査参加者の36%がファインアーティストとして働いていると回答したのに対し、サンフランシスコ芸術大学では57%にのぼっていることなどをあげている (SFAI 2014)。

最後に今後の SNAAP の展開だが、これまでの知見を成果としてまとめ上げるとともに、今後の調査内容や分析方法を向上させるために修正を加える目的で、2014年度に SNAAP 調査は行われていない。そのかわりに759機関の約800人の教職員に対して SNAAP に関するフィードバック調査を実施し、そこから得られた知見を活用して調査方法や運営方法の包括的な調整を行

い、2015年度以降の SNAAP 調査の向上につなげていく予定である。順調にいけば次回 SNAAP 調査は2015年の春に参加募集が始まり、調査実施は同年秋を予定している (SNAAP 2014:25)。

5. 今後への示唆

アメリカにおける Alumni Studies の代表的事例である B&B と SNAAP を通じて、現在のアメリカの Alumni Studies の研究状況と、その知見の応用と実践の状況が明らかになった。B&B については社会調査としての社会的な Alumni Studies を引き継いで発展したものとなっており、その知見は広く公開され基礎研究に貢献するだけでなく、教育、労働、経済と広く社会的な政策や行政に活用されている。SNAAP については個別大学の IR や Alumni Research に直接的に貢献する形で実施されており、参加大学のベンチマーキングや学修成果の可視化の支援に役立てられている。その一方で調査全体の研究成果も基礎研究の発展を支えながら学問的にも社会的にも極めて有用なプロジェクトとして成立しており、コンソーシアム化によって独立した形で運営が始まっていることも今後を期待させるものである。

一方日本においても、2000年代以降、金子調査 (金子 2013) や山田調査 (山田 2012) 等による全国規模の学生調査を通じて学生の学修行動の研究は飛躍的に進展し、我が国の現代の高等教育の実情が明らかになるとともに、国際的な比較研究も盛んになった。そうした大規模学生調査の研究結果を Alumni Studies の知見と結びつける事が出来れば、我が国の高等教育研究においてもさらに深い知見を得られるであろう事は想像に難くない。基礎研究の重要性が再認識される現在 (谷口 2015)、高等教育においてもこうした基礎レベルの着実な知見の積み重ねは必要不可欠である。職業的なレリバンスの観点から GP 事業や企業系の調査によってそうしたギャップを埋めて行く事業も広がりつつあるが、一部のセクターのメリットに偏る事なく、全国的な大規模卒業生調査を通じた基礎研究としての Alumni Studies (卒業生研究) の研究環境を整え、これまで実施されてきた大規模学生調査の研究知見と結びつけて行く事によって、高等教育の基礎研究がさらに発展し、それぞれの研究者による応用研究や、各大学、企業による応用実践への適用に繋がって行く事が望まれる。

注

- * 1 Alumni Research : Alumni Research については、「個別高等教育機関による卒業生の調査・研究・分析」といった意味が妥当であるが、訳語としては冗長である。辞書的な意味で「卒業生研究」や「卒業生調査」を当てることも、それぞれ Alumni Studies や Alumni Survey と混同してしまうことからの確とは言えない。ここで強いて選ぶとするならば「卒業生分析」となるのだが、IR を「機関分析」と訳出することがためらわれる通り、若干意味を狭めてしまうと言える。そこで本稿では Alumni Research に関しては、Institutional Research (IR) という用語同様に、Alumni Research として原語のまま使用することとした。
- * 2 Alumni : Alumni については、固有名詞など特定の訳がある場合を除いては、基本的に「卒業生」としている。Alumni のうち、一定の目的を持って活動するもしくは何らかの意図の下に組織化されたものについては、同窓生あるいは校友の訳語を当てる。両者の仕分けは、Alumni Association の場合に準じることとした。つまり、卒業生自身によって自然発生的に組織化されるいわゆる一般的な卒業生団体を「同窓会」とし、機関 (法人) 側の主導によりカレッジや大学の利害関係を第一義として組織化されるものを「校友会」とした。ここで注意しなければならないこととして、日本語の「同窓会」

には、同窓生同士による一時的な行事やイベントである Alumni Reunion を指す場合がある。本稿ではなんらかの形で常設されている組織体・団体としての「同窓会」を取り扱うものとする。一時的催し事・行事・イベントとしての「同窓会」について、「リユニオン」等の表記も一部の教育関係者の間に増えてきてはいるが、実情としては現在でも「同窓会」の呼び方がまだまだ一般的であることは認識しておく必要がある。

- * 3 Alumni Relations : Alumni Relations を直訳するとすれば、「卒業生と母校の関係」、より端的に一言で言えば「卒業生関係」といったあたりだが実際には適当な訳は見当たっていない。Public Relations (パブリック・リレーションズ) を PR と省略するように、AR と省略してしまうか、単に片仮名でアラムナイ・リレーションズとしてみることも考えられるが全く定着しておらず、AR に至っては Alumni Research とのさらなる混同が想定される。校友関係や同窓会業務といった意識も正確さに欠けてしまう。そこで本稿では基本的には Alumni Relations という原語を使用するとともに、訳出が求められる場合には、私立大学連盟が1987年の特定研修で使用して以来おりおりで使用されてきた「校友行政」という用語を必要に応じて使用する。
- * 4 Alumni Studies : Alumni Studies についても本稿では基本的には原語をそのまま使用する。ただあえて訳出するのであれば、卒業生研究が現在の用法においては的確である。だがこれまでも明らかな通り、状況によっては歴史的には現在よりも広い意味で使用されている場合もあり、そうした状況では必要に応じて「卒業生を対象とする研究」という詳細な訳語をあてる。さらに時代によっては「必ずしも公表を目的としない個別高等教育機関独自の実践」も「公的な研究の蓄積に資する目的の研究」も一緒くたにしてしまって Alumni Studies という用語が使われていた時期もある。そうした場合は訳出の有無にかかわらずどちらのタイプなのかを具体的に示した。まれに日本の大学で行われている、いわゆる卒業制作との混同がみられるが、Higher Education Studies を高等教育研究と訳すことと同様に、あえて訳出が必要な場合は Alumni Studies については卒業生研究と訳すことが最適であると考える。

Reference

- 青山佳代, 2006, 「アメリカ州立大学におけるインスティテューショナル・リサーチの機能に関する考察」『名古屋高等教育研究』第6号 : 113-130.
- 中央教育審議会, 2008, 『学士課程教育の構築に向けて (答申)』.
- 江原昭博, 2009, 「アメリカにおける大学の同窓会: その成立過程と日本への示唆」『国立教育政策研究所紀要』138 : 125-139.
- 江原昭博, 2010, 「アメリカの大学における卒業生を対象とする研究: Alumni Studies の歴史的変遷」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第55輯 : 155-168.
- 江原昭博, 2011, 「インスティテューショナル・リサーチにおける Alumni Research : アメリカの大学における卒業生分析を手がかりに」『データによる大学教育の自己改善—インスティテューショナル・リサーチの過去・現在・展望—』早稲田大学出版局, pp. 37-50, 沖清豪編.
- 江原昭博, 2013, 「日本型 IR の現在地: 「自学にとって」機能的な IR の設計を」『Between』2013年10-11月号 : 3-5.
- 飯野正子, 1997, 「校友会活動の日米比較」日本私立大学連盟『大学時報』46(253) : 58-61.
- 金子元久, 2008, 「はしがき」東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター『全国大学生調査: 第一次報告書』i.
- 金子元久, 2013, 『大学教育の再構築: 学生を成長させる大学へ』玉川大学出版部.
- Kerr, Clark, 1991, *The Great Transformation in Higher Education, 1960-1980*, New York: State University of New York Press, (=1996, 小原芳明・高橋靖直・加澤恒雄・今尾佳生訳『アメリカ高等教育の大変貌』玉川大学出版部).
- 喜多村和之, 1973, 「アメリカにおける『大学研究』の展開—序説」『大学論集』第1集 : 20-31.

- 喜多村和之, 1990, 「同窓会 (Alumni) の意義—アメリカの場合を中心に」 文部省高等教育局学生課編『大学と学生』297: 7-13.
- 小林雅之, 両角亜希子, 片山英治, 2007, 『わが国の大学の財務基盤強化に向けて: 研究序説: 東大—野村大学経営ディスカッションペーパー No.01』, 東京大学大学総合教育研究センター.
- 小林雅之, 両角亜希子, 片山英治, 羽賀敬, 2008, 『アメリカの大学の財務戦略: 4 大学現地調査報告: 東大—野村大学経営ディスカッションペーパー No.05』, 東京大学大学総合教育研究センター.
- 小林雅之, 2014, 『平成24-25年度文部科学省大学改革推進委託事業: 大学における IR の現状と在り方に関する調査研究報告書』 東京大学.
- 小湊卓夫・中井俊樹, 2006, 「国立大学法人におけるインスティテューショナル・リサーチ組織の特質と課題」 大学の諸活動に関する測定指標調査研究会『大学の諸活動に関する測定指標の調査研究』229-247.
- Lapovsky, Lucie., 両角亜希子ほか訳, 2007, 『アメリカの大学における基金の活用: 東大—野村大学経営ディスカッションペーパー No.03』, 東京大学大学総合教育研究センター.
- Lindemann, Danielle J. and Tepper, Steven J., 2012, *Painting with Broader Strokes: Reassessing the Value of an Arts Education (SNAAP Special Report No. 1)*. Bloomington, In: Indiana University Center for Postsecondary Research.
- 丸山文裕, 2006, 「アメリカの大学における基本財産管理」『IDE 現代の高等教育』484: 59-65.
- Melchiori, Gerlinda S., 1988, *New Directions for Institutional Research*, 60.
- NCES, 2003, *Baccalaureate and Beyond Longitudinal Study: 2000-01 (B&B: 2000/01) Methodology Report*.
- NCES, 2005, *1993/03 Baccalaureate and Beyond Longitudinal Study (B&B_93/03) Methodology Report*.
- NCES, 2013, *2008/09 Baccalaureate and Beyond Longitudinal Study (B&B_08/09) - Full-scale Methodology Report*.
- 野田文香, 2009, 「アウトカム評価としてのインスティテューショナル・リサーチ機能」『立命館高等教育研究』第9号: 125-140.
- 岡田聡志, 2009, 「Institutional Research の組織化と変容: 米国における差異と欧州における展開」『早稲田大学文学研究科紀要』100: 67-77.
- 沖清豪・岡田聡志, 2008, 「アメリカの高等教育機関による Institutional Research をめぐる論争史」『早稲田教育評論』22(1): 63-81.
- Reed, Williams, and Reed, Beverly, 小林雅之・片山英治・劉文君訳, 2008, 『高等教育機関のための寄付募集入門: アートとサイエンス: 東大—野村大学経営ディスカッションペーパー No.01』, 東京大学大学総合教育研究センター.
- San Francisco Art Institute (SFAI), 2014, *About San Francisco Art Institute: Student Outcomes* (<http://www.sfai.edu/about-sfai/student-outcomes>) (2015年1月25日最終アクセス)
- 清水畏三, 1987, 「アメリカの大学校友会—その母校愛と寄附」日本私立大学連盟『大学時報』36(192): 46-49.
- Strategic National Arts Alumni Project (SNAAP), 2012, *A Diverse Palette: What Arts Graduates Say about their Education and Careers — Annual Report 2012*, Bloomington In: Indiana University Center for Postsecondary Research.
- Strategic National Arts Alumni Project (SNAAP), 2013, *An Uneven Canvas: Inequalities in Artistic Training and Careers — Annual Report 2013*, Bloomington In: Indiana University Center for Postsecondary Research.
- Strategic National Arts Alumni Project (SNAAP), 2014, *Making It Work: The Education and Employment of Recent Arts Graduates — Annual Report 2014*, Bloomington In: Indiana University Center for Postsecondary Research.
- 田中義郎, 2006, 「アメリカ大学のファンドレイジング—フィランソロピーの制度化の賜物」『IDE 現代の高

等教育』484：16-21.

谷口功, 2015, 「大学研究基盤の課題：適正な資金配分による研究の活性化に向けて」『IDE 現代の高等教育』568：59-65.

鳥居朋子, 2005, 「大学におけるインスティテューショナル・リサーチの実効性に関する考察—米国及び豪州の事例を手がかりに」『名古屋高等教育研究』第5号：185-203.

山田礼子, 2003, 「同窓会サイトへアクセス—大学本体の活動と密接にリンクした展開」『カレッジマネジメント』リクルート122：48-51.

山田礼子, 2007, 「アメリカの大学における最近の同窓会戦略—多彩な活動を支える専門家を育成」『カレッジマネジメント』リクルート144：20-24.

山田礼子, 2009, 『大学教育を科学する：学生の教育評価の国際比較』東信堂.

山田礼子, 2012, 『学士課程教育の質保証へむけて：学生調査と初年次教育からみえてきたもの』東信堂.

SNAAP 参加機関

Alabama		Northern Kentucky University
Judson College	Florida	University of Kentucky
University of Alabama	Douglas Anderson School of the Arts †	University of Louisville *
University of Alabama in Huntsville *	Florida Atlantic University *	Western Kentucky University *
University of Mobile	Florida International University *	
University of Montevallo	Florida State University	Louisiana
	New World School of the Arts	Louisiana School for Math, Science, & the Arts †
Alaska	Palm Beach Atlantic University	Louisiana State University *
University of Alaska Anchorage *	Ringling College of Art and Design *	New Orleans Center for Creative Arts †
	Stetson University *	University of Louisiana at Monroe *
Arizona	University of Florida *	University of New Orleans *
Arizona State University *	University of Miami	
	University of South Florida	Maine
Arkansas		Maine College of Art *
Arkansas State University *	Georgia	
University of Arkansas *	Berry College	Maryland
	Columbus State University	Baltimore School for the Arts †
California	Georgia College & State University	Maryland Institute College of Art *
American Academy of Dramatic Arts	Georgia Southern University *	Peabody Institute, Johns Hopkins University
Art Center College of Design *	Georgia State University *	Washington Adventist University *
California Baptist University *	Kennesaw State University	
California College of the Arts *	Shorter University	Massachusetts
California Institute of the Arts *	Valdosta State University *	Boston Arts Academy †
California Lutheran University *	Wesleyan College	Boston Conservatory
California State University–Dominguez Hills		Boston University
California State University–Fullerton *	Hawaii	Emerson College *
Chapman University *	University of Hawaii at Manoa	Lesley University College of Art and Design
The Colburn School *		Massachusetts College of Art and Design *
Idyllwild Arts Academy †	Idaho	New England Conservatory
Laguna College of Art and Design *	Brigham Young University–Idaho	NE School of Art & Design, Suffolk University
Los Angeles County High School for the Arts †	University of Idaho	School of the Museum of Fine Arts, Boston *
Oakland School for the Arts †		University of Massachusetts, Amherst *
Orange County High School for the Arts †	Illinois	University of Massachusetts, Dartmouth *
Otis College of Art and Design *	Chicago Academy for the Arts †	Walnut Hill School for the Arts †
San Francisco Art Institute *	Chicago State University	
San Francisco Conservatory of Music	Columbia College Chicago *	Michigan
San Francisco State University	DePaul University *	Albion College *
University of California–Berkeley *	Knox College *	Alma College
University of California–Davis *	Loyola Chicago University	College for Creative Studies
University of California–Irvine *	Millikin University *	Eastern Michigan University *
University of California–Los Angeles *	Roosevelt University	Hope College
University of California–Merced	School of the Art Institute of Chicago *	Interlochen Arts Academy †
University of California–Riverside *	University of Illinois at Urbana–Champaign*	Kendall C of A & D at Ferris State University *
University of California–San Diego *		Oakland University *
University of California–Santa Barbara *	Indiana	University of Michigan *
University of California–Santa Cruz *	Butler University *	Western Michigan University *
University of Southern California	DePauw University *	
Woodbury University	Indiana University *	Minnesota
	Indiana University–Purdue University	College of Visual Arts *
Colorado	Indianapolis *	Minneapolis College of Art and Design *
Colorado State University	Purdue University *	St. Cloud State University *
Colorado State University–Pueblo	Saint Mary's College	St. Olaf College
University of Colorado at Boulder *		University of Minnesota Duluth
University of Denver *	Iowa	University of Minnesota–Twin Cities *
University of Northern Colorado *	Drake University	Winona State University
	Iowa State University	
Connecticut	Morningside College	Mississippi
Central Connecticut State University	University of Northern Iowa	Delta State University
Lyme Academy College of Fine Arts		
University of Hartford *	Kansas	Missouri
Western Connecticut State University *	Kansas State University	Columbia College
	Pittsburg State University *	Culver–Stockton College
Delaware	The University of Kansas *	Evangel University *
University of Delaware	Wichita State University *	Kansas City Art Institute *
		University of Missouri–Saint Louis
District of Columbia	Kentucky	University of Missouri–Kansas City *
Corcoran College of Art & Design *	Bellarmine University *	Washington University in St. Louis *
Duke Ellington School of the Arts †	Morehead State University	Webster University

SNAAP 参加機関

	Ohio Northern University *	Brigham Young University
Montana	The Ohio State University *	University of Utah *
University of Montana–Missoula	Ohio University *	Utah State University *
	Ohio Wesleyan University	Weber State University
Nebraska	Otterbein University	
University of Nebraska at Omaha	University of Akron, Main Campus	Vermont
University of Nebraska–Lincoln*	University of Cincinnati *	University of Vermont *
	Wittenberg University	
New Jersey		Virginia
College of New Jersey	Oregon	George Mason University
Montclair State University	Oregon College of Art and Craft	James Madison University *
Rowan University	Pacific Northwest College of Art *	Old Dominion University
Seton Hall University *	Portland State University	Shenandoah University Conservatory
William Paterson University of New Jersey		University of Richmond *
	Pennsylvania	University of Virginia *
New Mexico	Bloomsburg University of Pennsylvania *	Virginia Commonwealth University *
Santa Fe University of Art and Design *	Bucknell University	
	Curtis Institute of Music	Washington
New York	Indiana University of Pennsylvania *	Cornish College of the Arts
Alfred University *	Lehigh Valley Charter HS for the Performing Arts †	Pacific Lutheran University *
Barnard College	Marywood University *	Washington State University
The City College of New York	Moore College of Art and Design *	Whitworth University
The Cooper Union School of Art *	Penn State University *	
Fashion Institute of Technology *	Pennsylvania Academy of the Fine Arts *	West Virginia
Hamilton College *	Pennsylvania College of Art and Design	Davis & Elkins College
The Juilliard School	Temple University *	Marshall University
LaGuardia HS of Music & Art & the Performing Arts†	University of the Arts *	West Virginia University *
Manhattan School of Music *		West Virginia Wesleyan College
New York School of Interior Design	Rhode Island	
New York University *	Rhode Island School of Design	Wisconsin
Pace University *	University of Rhode Island	Milwaukee Institute of Art and Design *
Parsons The New School for Design		University of Wisconsin–Eau Claire
Pratt Institute *	South Carolina	University of Wisconsin–Green Bay
Rochester Institute of Technology *	Clemson University Coker College *	University of Wisconsin–Madison *
School of Visual Arts *	College of Charleston *	University of Wisconsin–Whitewater *
Skidmore College	Converse College	
State University of New York at Fredonia	Fine Arts Center †	Wyoming
State University of New York at New Paltz	SC Governor's School for the Arts & Humanities†	University of Wyoming
State University of New York at Purchase College*	University of South Carolina Columbia	
Syracuse University *	Winthrop University	Canada
University of Rochester Eastman School of Music		Alberta College of Art + Design
	South Dakota	Nova Scotia College of Art and Design
North Carolina	Northern State University *	OCAD University
East Carolina University		
Greensboro College	Tennessee	
University of North Carolina at Charlotte *	Austin Peay State University *	
University of North Carolina at Greensboro	Belmont University	
University of North Carolina School of the Arts	Maryville College	
Western Carolina University	Memphis College of Art *	
	Vanderbilt University	
North Dakota		
North Dakota State University *	Texas	
University of North Dakota	High School for the Performing and Visual Arts †	
	Lamar University	
Ohio	North East School of the Arts †	
Baldwin–Wallace College	Rice University	
Bluffton University	Southern Methodist University *	
Bowling Green State University	Stephen F. Austin State University *	
Capital University Conservatory	Texas Christian University	
Case Western Reserve University *	Texas State University *	
Cleveland Institute of Art *	University of Houston *	
Cleveland Institute of Music *	University of Mary Hardin–Baylor	
Cleveland School of the Arts †	University of North Texas *	
Cleveland State University	The University of Texas at Austin *	
Columbus College of Art & Design *	University of Texas at El Paso	
Hiram College	University of the Incarnate Word	
Kent State University *		
Miami University *	Utah	